

未来館 NEWS

2022 SPRING
VOL.

81



特集 / コロナ禍を生きる、私たち。

特集 コロナ禍を生きる、私たち。

新型コロナウイルス感染症(以下:新型コロナ)が令和2年の年明けから世界的に広がりまして2年が経過し、私たちの仕事や生活に多大な影響を及ぼしています。

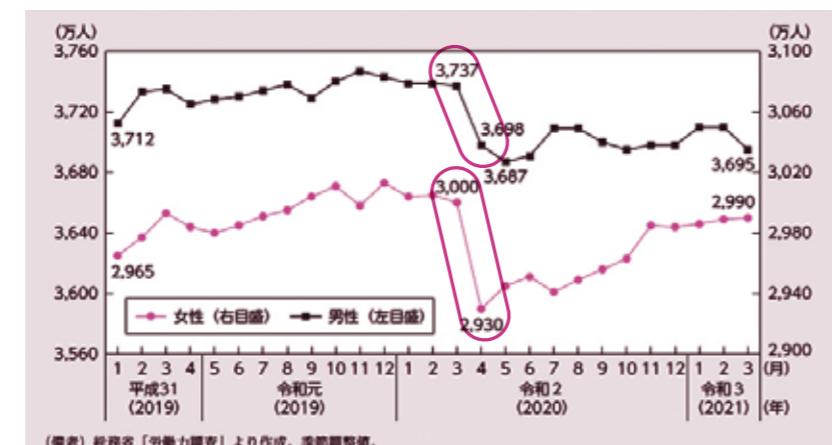
特に、女性への影響が大きいと言われ、新型コロナに起因する①雇用、②DV(ドメスティック・バイオレンス)、③自殺の問題等が深刻さを増しています。

1 非正規雇用の女性への影響

令和2年4月に発出された緊急事態宣言により、前の月と比べると男女ともに大幅に雇用者数が減少しました。男女で比較すると、女性は70万人、男性は39万人と、女性の減少幅は男性の約2倍となっています。(グラフ1)

これは、非正規雇用に占める女性の割合が約7割と高いことと、特に、新型コロナの影響が大きかった「宿泊業、飲食サービス業」「生活関連サービス業、娯楽業」等に従事する雇用者の内、女性非正規雇用者の割合が高かったことが要因に上げられます。

また、子どもの休校により主に母親が仕事を休まざるを得ない状況となり、特に、母子世帯は仕事と家庭の両立が困難となり、さらに、厳しい状況になっています。



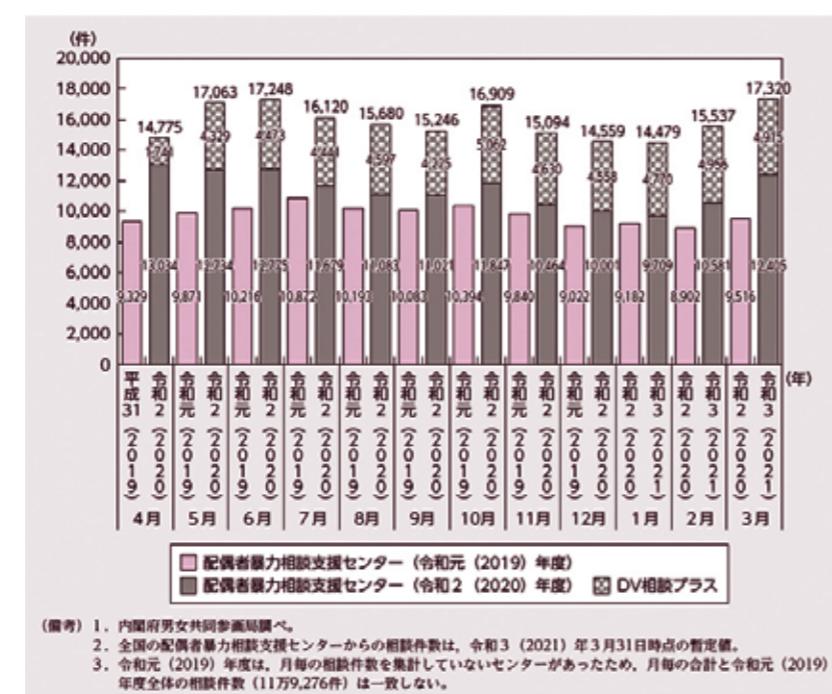
グラフ1 雇用者数の推移(出典:令和3年度男女共同参画白書)

2 女性に対する暴力

不安やストレス、外出自粛による在宅時間の増加等によって、女性に対する暴力の増加や深刻化が懸念されています。

令和2年度の全国の配偶者暴力相談支援センターとDV相談プラスの相談件数は、約19万件で、前年度と比べると約1.6倍に増加しました。(グラフ2)

外出自粛が求められ、閉鎖的な家庭内から相談することや、助けを求めることは難しく、長引くコロナ禍で、被害を受けている女性への支援は重要です。



グラフ2 DV(配偶者暴力)相談件数の推移(出典:令和3年度男女共同参画白書)

3 女性の自殺者数

令和2年の自殺者数は、女性の自殺者の増加が前年比935人増と大幅に増えました(男性は23人減)。雇用問題やDV被害、育児・介護の悩みや負担増など、様々な問題がコロナ禍において深刻化したことが女性の自殺者数の増加に影響したのではないかと言われています。

また、新型コロナの感染が世界的に広がり、感染防止の観点から集うことも難しく、孤立感が高まったことも要因の一つと考えられます。

なお、自殺者数は女性7,026人、男性14,055人(令和2年)と男性の方が2倍となっており、男性が受けている社会的な負担も依然として大きな課題です。

国や県など、様々な機関で相談窓口を設けています。電話だけではなく、メールやSNSなどでも相談できます。一人で抱え込まず、相談をしてみませんか。

●新型コロナウイルス感染症に関する相談窓口

福島県 一般相談(コールセンター)

受付時間 平日 8時30分～21時00分
土日祝日 8時30分～17時15分

電話番号 0120-567-177
FAX:024-521-7926
※耳の不自由な方はFAXでご連絡ください。

厚生労働省相談窓口

受付時間 9時～21時※土日祝日含む

電話番号 0120-565653

新型コロナウイルス感染症の影響による特別労働相談窓口

受付時間 総合労働相談コーナー
8時30分～17時15分

電話番号 024-536-4600
0800-800-4611(フリーダイヤル:労働者専用)

郡山総合労働相談コーナー

受付時間 8時30分～17時15分

電話番号 024-900-9609

労働相談(県中小企業労働相談所)

受付時間 平日 9時～16時

電話番号 0120-610-145

※新型コロナウイルス感染症の影響による特別労働相談窓口は、一般的な労働相談、賃金や休業手当に関する相談、雇用調整助成金に関する相談など、様々な相談先を紹介していますので、厚生労働省福島労働局のホームページ「相談窓口情報」をご覧ください。

●新型コロナウイルス感染症に関するこころの相談窓口

こころの電話(福島県精神保健福祉センター)

受付時間 平日 9時～17時

電話番号 024-535-5560

●新型コロナウイルス感染症に関する誹謗中傷等被害の相談窓口

福島県誹謗中傷等被害の相談窓口

受付時間 平日 9時～17時

電話番号 024-521-8647

詳しくは、それぞれのホームページをご確認ください。

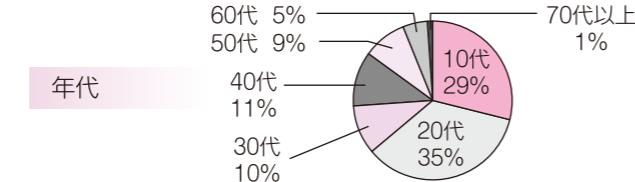
特集 コロナ禍を生きる、私たち。

福島県男女共生センター 令和3年度自主研究

「新型コロナウイルス感染症が及ぼす影響に関する調査」概要紹介

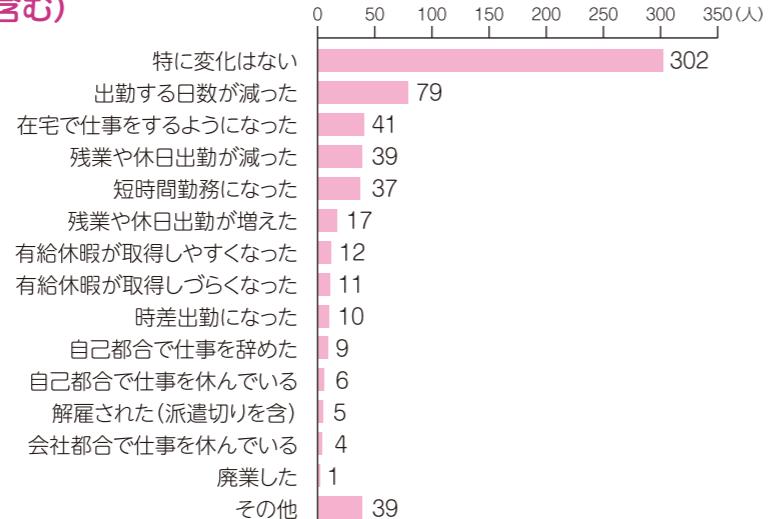
福島県男女共生センターでは1年以上続くコロナ禍で、県民の皆さん的生活や就業、困りごとや心身の変化などについてアンケートを行いました。その結果の一部をご紹介します。

基本情報 回答者:709名 対象者:福島県に在勤在住の方 アンケート実施期間:2021年12月1日~31日
実施方法:Googleフォームによるインターネット回答及びセンター館内設置のアンケート用紙から回答。



1 新型コロナウイルスの影響で、あなたの働き方にどのような影響がありましたか。 (複数回答可、学生でアルバイト等も含む)

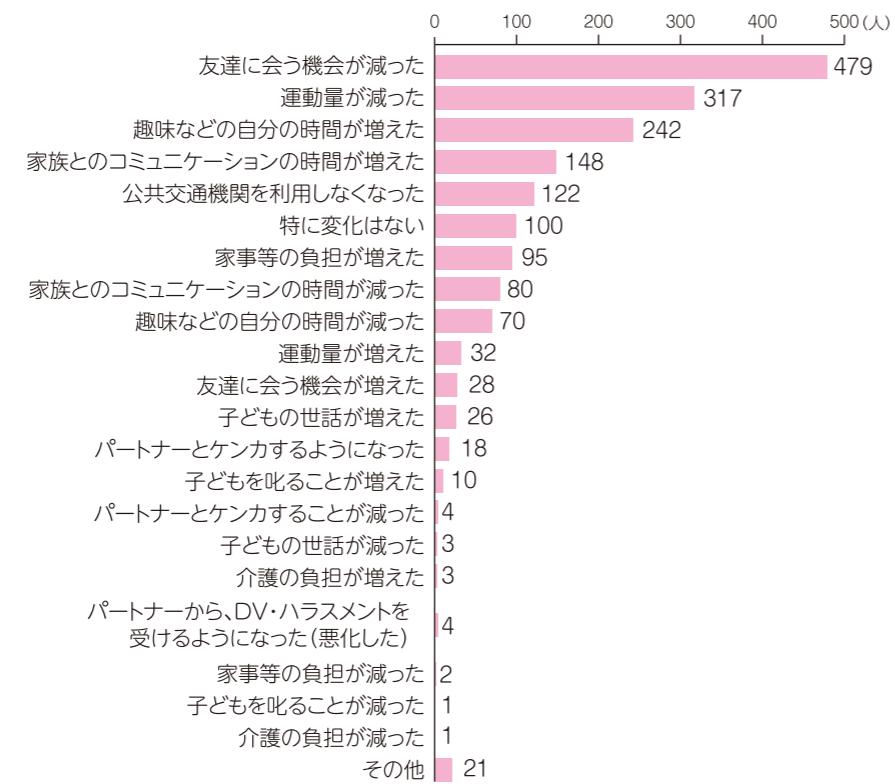
「特に変化はない」と回答した方が302人(59.8%)と、最も多く約6割を占めた。
変化があった事として、「出勤する日数が減った」「在宅で仕事をするようになった」と回答した方が多かった。



2 コロナ禍から1年以上が経過し、あなたの生活面でどのような変化がありましたか。 (複数回答可)

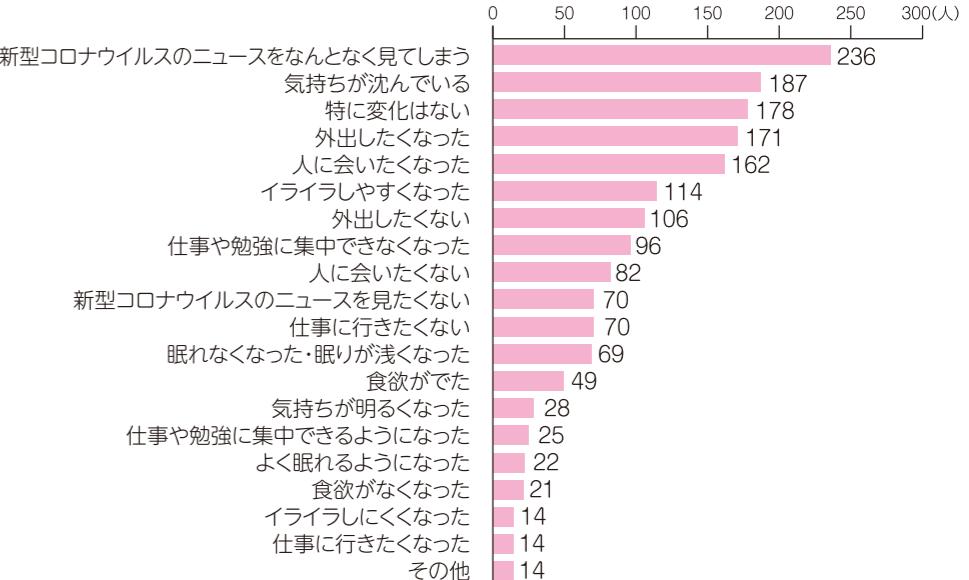
「友達に会う機会が減った」が最も多く479人(68.3%)、「運動量が減った」とマイナス面の回答が続いたが、「趣味などの自分の時間が増えた」や「家族とのコミュニケーションの時間が増えた」といったプラス面の理由も上位にあがつた。

また、感染予防対策のため、長引く外出自粛の影響等から「パートナーから、DV・ハラスメントを受けるようになった(悪化した)」(4人)と回答しており、相談につながるよう、更なる支援が必要であると考える。



3 コロナ禍から1年以上が経過し、あなたの心身にどのような影響がありましたか。 (複数回答可)

「新型コロナウイルスのニュースをなんなく見てしまう」「気持ちが沈んでいる」が最も多く236人(34.1%)、「気持ちが沈んでいる」が187人と続いた。毎日発表される感染者数に気が休まらず、終わりが見えない中、感染症対策をしながらの生活が心身に大きなストレスとなっていると考えられる。



4 コロナ禍から1年以上が経過し、困っていることや不安に思っていること等はありますか。 (自由記述)

- ワクチン接種をしないといけないような風潮が良いと思えない。職場でも圧を感じる。
- 金銭的に余裕がなく、生活が苦しい。学生への金銭的・食事的な支援が欲しい。
- 感染者数が減ってきていため、遊びに行きたいが、周りにどう思われているのかが気になり手放して遊びに行けない。
- ネット上の面接試験のことや、募集人数の削減など、就職関連のことでの不安がある。
- 過剰に心配している社会の現象

今回の調査では、新型コロナウイルス感染症により県民の皆さんのが仕事や生活、心身等にどのような変化があつたのかについて、たくさんの方々から回答を頂くことができました。感染症対策を講じながらの生活が長引き、大きなストレスを抱え、困っていることや不安に感じていることは多岐にわたっています。

本調査では、他に生理の貧困等について調査しており、詳細は令和4年3月にホームページで結果を公表予定です。



センター図書室の「新型コロナウイルスの女性への影響」に関するオススメ本 『新型コロナと貧困女子』

中村淳彦/著 宝島社 2020年 ▶

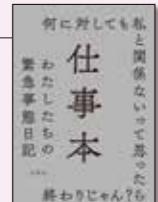
新型コロナウイルス流行の影響で、ごく普通の生活を送ることが難しくなりました。加えて、社会の貧困化の影響を受けやすい女性たちに更なる危機が訪れています。この本は、外出自粛要請の渦中にあつた新宿・歌舞伎町や池袋・西口などの夜の街を取材したものです。夜の街で労働せざるを得ない女性たちは、このコロナ禍でどのような生活の変化があつたのか。多くの過酷な社会問題を執筆してきた著者が、壮絶な実態を記します。



『仕事本 わたしたちの緊急事態日記』

左右編集部/編 左右社 2020年 ▶

2020年4月、新型コロナウイルス流行による初めての緊急事態宣言が日本で発せられました。この本は、宣言直後にあつた当時の人の日々の日記を、アンソロジー化したもので、仕事をテーマに、77人という多くの人達が依頼に応え執筆しました。女子プロレスラーや専業主婦等その仕事の種類や内容も多岐にわたりています。未曾有の事態のなかにあっても日常の変化を受け止めつつ、誰かの生活を支えるために奮闘する一人一人の姿がリアルに伝わってくる一冊です。



問い合わせ 福島県男女共生センター図書室
0243-23-8308

開館時間 9時~20時
(休館日前日は17時、休館日は月曜日)



未来館トークサロン～福島県男女共生センター20年　これまでとこれから～

福島県男女共生センターが開館して20年。これまでセンターに関わりのあった方たちと千葉悦子館長が本音で話しました。

2021年11月9日(火)

出席者

鈴木 千賀子さん(2000～2002年度 調査研究室長)
中野 伸介さん(2010～2013年度 副館長)
大島 隆之さん(2016～2019年度 事業課長)

千葉 福島県男女共生センター(以下、「センター」)は今年の1月で20周年を迎えました。この20年間に感じられたこと、課題と思われることについて、本音をお話しいただいて、センターのこれからの方にしていきたいと思っています。

●センターに勤務したこと

鈴木 私はセンターの立ち上げのときに在籍しておりました。最初は、男女共同参画も、男女共生と男女平等もどう違うのかということが全くわからない状態から仕事に入らざるを得なかったので、大変苦労いたしました。私にとって、職業生活の中で、このセンターでの3年間は一番忘れがたく、自分の人生にとって意味のある年月だったなと思っています。

中野 2010年4月から2014年の3月まで、4年間、副館長をやらせていただきました。

ジェンダーなどについては、一般的な知識しかなくてセンターに参りましたが、いろいろ勉強させていただきました。「ワーク・ライフ・バランス」や「ダイバーシティ」「LGBT」などを新鮮に学ぶことができ、貴重な経験をさせていただいて、私のその後の人生に、その成果が生かされたと改めて感謝をしています。

大島 2016年4月1日、センターに着任した後、職員からいの一番にレクチャーを受け、そこで改めて男女共同参画というものを学んだという思いがあって、その日、すごく自分で驚いた思い出がまだ残っています。

私が着任してきたときは、ちょうどセンターが震災や復興の分野に特に力を入れていて、それを引き継いで人材育成研修に取り組みました。また、女性活躍推進法が施行になった時期で、そういうテーマを取り入れて事業をやってきました。

●業務で大変だったこと

千葉 センターの立ち上げの時期、どんなことが大変だったのでしょうか。

鈴木 大変だったのは、センターがスタートした



年度の前年に男女共同参画社会基本法が施行されましたが、実は県職員だった私たちにとって「男女共同参画ってなんだ?」という感じで、未知の世界と同然だったことでした。

まず固めなければいけなかったのは「男女共同参画」という理念についての理解でした。ジェンダー関係の書物、社会学から心理学から生物学から、いろいろ学際的なところまで、その裾野が広いものですから、大変な勉強でした。

そして、それは要するに「Gender Equality」なんだという理解に達しました。今年の新語・流行語大賞に「ジェンダー平等」が入っているのを見て、世の中がそれだけ変わってきたのかなと思いつつ、センターでは最初から、ジェンダー平等ということをやってきたんだよなとすごく感慨深いです。

千葉 センターが2001年にでき、他方では2000年代はジェンダー・バッカラッシュが激しいときでしたよね。そういう影響はセンターにもありましたか。

鈴木 ありました。私たちは「ジェンダー平等」を最初から使っていたのですが、当時は「ジェンダー」という言葉を出すこと自体が非常に困難でしたね。センターにも、「ジェンダーフリーなんておかしいぞ」というご意見がたくさん来っていました。

千葉 当時の知事が、公募研究の発表会のあいさつで、自らバッカラッシュの話をしたんですよね。「私はそういうものには立ち向かいします」と言ったのを聞いて、すごいなと思った記憶があります。こういう知事のもとにいることは県民として幸せだ

なと思いましたね。

それでは、中野さんのお話をお願ひします。

中野 私は、2010年の4月に来て、年が明けて東日本大震災という大災害に遭遇しました。県の施設ですから、避難者の方の受け入れから震災対応が始まりました。

そのあとは、ビッグパレットふくしまの女性専用スペースの取組みをはじめ、災害にシフトした事業展開となり、被災者支援、福島からの発信など、女性たちの支援をしながら役割を果たしていくという、変則的な事業展開をせざるを得なかつた時代が続きましたね。

千葉 ビッグパレットに行くことになったとき、不安はなかったですか。

職員 そんなに不安は感じていなかったです。それよりもセンターが実践的活動拠点としての使命をもう果たせないということのほうが心配だったので、ようやく何か自分たちの役割が見つかってよかったです。センターが使えない状況だったので、ほかに自分たちができるることは何かというのをみんなで探していたような時期だった気がします。

千葉 今までやってきたこととは全然違つてでしたが、自分なりに探して、いろいろ工夫しながらやっていて、すごく頼もしいなとあのとき思いましたね。

中野 明らかにビッグパレットでの取り組みがリーディングケースになったわけだし、それは今後の災害時の対応につながりますよね。この活動は実績として残せたんじゃないかなと思います。

千葉 大島さんは連携ということに力を入れてくださいました。

大島 はい。アドバイザーミーティングでのご意見の1つに連携がありました。事業構築する上で、いろんなところを巻き込んで連携先を探すということを念頭に置きました。それから、センターで事業を開催するだけではなくて、現地に出向いて行うアウトリーチ、多種多様な媒体を使って行う広報、この3つを念頭に置きつつ、事業計画を課員の皆さんとディスカッションしながら構築してきました。

●これからのセンターに期待したいこと

千葉 いろいろやってきた中で、今後継続してやってほしいこととか、重要だと思ったことはありますか。

大島 これからセンターに何を期待するかと言われば、私は「不易流行」という四字熟語を挙げたいと思います。「不易」は、いくら世の中が変わっても変わらないものの、それは、男女共同参画であり、男女平等です。そのような変わらない基本中の基本は、繰り返し繰り返しやっていかなければなりません。

それから、「流行」は、世の中の変化とともに変わっていくということで、その変化に対応するような事業です。県民の意見を見たり聞いたりしながら、地域課題解決という視点で具体的な時期に合わせた事業展開をしていくことが求められると思います。

鈴木 私は、男女共同参画はとにかく行政がトップランナーとして県民を引っ張っていく分野ですから、行政に携わる方々はまず男女共同参画というものをきちんと理解してほしいと思っています。そのためには、このセンターをもっともっと活用してほしいし、何かについて相談してほしい、ここに来て勉強してほしいと思います。私はこのセンターは本当に宝だと思っていますので、県職員の方々をこれからも大いに支えていっていただきたいです。

中野 このセンターは、立地条件からすると仕事帰りの女性や女性団体が自由に利用することは難しいと思うんですね。ですから、こちらから市町村や学校、企業などいろいろなところの研修の機会を捉えて、出かけていってほしいと思います。

千葉 皆さん、今日は本当にありがとうございました。改めてこの20年の重みを実感いたしました。これまで、センターが立ち上がるまでのことでお話しする機会がなかったので、本当に大変だったんだなということをすごく感じました。本当にゼロというか、マイナスから始めて、そして二十数年たって今に至っている。その間に震災があったり、今回のようにコロナがあったり、いろんな課題を乗り越えながら、今、それぞれがそれなりの経験を蓄積しているという、そこを大事にしなきゃいけないなと思いました。

職員のみなさんが今日は頼もしく光って見えました。中野さんから「もっともっと地域に出張っていかなきゃいけないよ」と言われましたので、もう少し頑張って旗を振って地域に出かけていきたいです。

未来館トークサロン～福島県男女共生センター20年　これまでとこれから～

福島県男女共生センターが開館して20年。これまでセンターに関わりのあった方たちと千葉悦子館長が本音で話しました。

2021年12月14日(火)

出席者

苅米 有希子さん(NPO法人ウィメンズスペースふくしま)
塩田 尚子さん (福島県国際女性教育振興会)
横田 智史さん (株式会社ペンギンエデュケーション代表取締役)

●活動内容について

苅米 私たちの団体は、女性のための相談支援を主に行っています。東日本大震災による女性のための暴力相談事業では、全国から無料で電話相談を受けています。そのほか、お子さんがいる女性を対象にしたグループ活動とか、若い世代を対象にしたデートDV相談なども行っています。

「未来館フェスティバル」は、毎年とても楽しみにしていました。職員の方たちがいきいきと、問題意識を持って発信していて、仕事が楽しそうだなどいつもうらやましく思っておりました。

横田 僕は、仕事で保育園の経営と、働き方改革のコンサルタントをしています。今年のライフデザインセミナーでは、学生向けに男女共同参画やワーク・ライフ・バランスなど、社会に出る上で必要とされていることなど、話をする機会を与えてもらいました。僕も「未来館フェスティバル」に参画させていただいたことを本当にうれしく思っていましたし、センターとのつながりがそこからすごく太く長くなって、今があります。

塩田 国際女性教育振興会(以下、「国女振」)の目的は「女性リーダーの育成」と「男女平等の確立」です。会員は県内各地におり、センターは福島県の真ん中なので総会などで使用させていただいているります。

「未来館フェスティバル」では、いろんな団体の方たちとのつながりをつくることができました。これからも、ぜひ、そういう機会をたくさんつくっていただきたいです。

千葉 みなさんはそれぞれ、男女共同参画に関する活動をしていますが、どのようなきっかけがあつたのでしょうか。

塩田 友人から海外研修への誘いがあって、「行きます」と言ったら、事前研修や事後の報告会があって、海外旅行=観光という感覚しかなかったので、とてもびっくりしました。

現地では教育機関や市役所でお話を聞いたり、日本大使館に行ったり、通常の観光ではできない経験をしました。それで、この会にもっと関わりた



いなと思うようになりました。

横田 15年前に保育園長に就いて、女性職員や保護者の話をとにかく聞いたことがきっかけです。お母さんたちの声をお父さんに伝えたところ夫婦関係がよくなつて、男性のパートナー理解を進める必要があると考えはじめました。もともと「男らしい」タイプで、この職業に就いていなければ見えなかつたことでした。

千葉 ジャア、園長先生になっていろんなことに気づかされ、横田さん自身が変わっていったんですね。

横田 だいぶ変わりました。自己主張の前に相手を理解しようと、「聞く」というスキルを身につけた感じがします。

苅米 私は震災の数週間前に子どもを産んだばかりで、そのときに、「母は強し」とか「自分を犠牲にしても子どもを守りなさい」などと周りに言われて、お母さんになったらなんでこんなにしんどいんだろう、何がこんなに苦しいんだろうと思っていた。

その後、母が代表をしていた「女性の自立を応援する会」に関わってから、今までの自分の生き難さが「ジェンダーだったんだ」ということにハッと気がつき、いろんなことが見え始めてしまって、もっと相談を学びたいと勉強させてもらって今に至ります。

●センターとの関わりについて

千葉 それでは、センターとの関わりを通して感じたことについて教えてください。

横田 7~8年前ぐらいに、男性向けに「イクメンのすすめ」という講演会を初めてセンターでやつたんです。何かやりたい、伝えたいことを職員のみなさんに相談しながら、ひとつの事業として形になつたもので、僕にとっての出発点です。社会情勢に合わせて相談しながら事業化できたというのは、本当にありがとうございました。当時、男性目線で男性に話をするというのは珍しかったですね。

千葉 横田さんはセンターにとって、いろんな事業を広げていくきっかけとなった人材ですね。

苅米 センターは対等に話ができる雰囲気があって、すばらしいです。例えば震災のときの避難所についての取材では、お互いを紹介し合っていましたね。顔が見えるし、どんなことをしていたかがお互いにわかるし、民間と県の施設として、貴重な経験を共有した関係だと思っています。

千葉 ウィメンズスペースふくしまは、県民の生の声を聴いて、置かれている状況について、よく知つていらっしゃる。センターは、そういう団体を通して、県民の思いとか悩みを整理する、というのが役割ではないかという気がします。だから、こういう団体があることが強みになると思いますね。

塩田 私たちの団体は、20年前からずっとお世話になっていて、皆さん、すぐにわかってくださって、すごく協力的に今までやってもらっています。先日の記録集を作るときにも、すごく力を貸していただいて、本当にいいものができました。そんなふうに、本当に安心してご相談やお願ひができるています。

千葉 国女振の活動ですごく印象的なことがあって、平成25年にNWECの男女共同参画推進フォーラムで、センターは報告をしたのですが、これは、国女振から「県のセンターがやらないでどうするんだ」と叱咤激励を受けたからなんです。このことは、何か新しいことに挑戦しようということに大きく影響したと思います。

それでは、これからセンターがどうあってほしいかについて、教えてください。

※未来館トークサロンの詳しい内容は、20年記念誌に掲載する予定です。

●これからのセンターに希望すること

塩田 ここは県の男女共生センターですよね。各市町村でもそれぞれに事業をやっているところはあると思うんですが、イベントは少ないですし、また、ここまで来られない人がいっぱいいると思うんです。だから、出張してやるようなイベントがあればいいなと思っています。

千葉 市町村への出前講座や、年に2回ですが、館長が地域に出ていく「未来館トークサロン」というのをやっていますが、もっとやれと?

塩田 いえいえ。でも、やっぱり知らない人がいっぱいいると思うんです。ですから、もっとみんなに知らせたいという意味も込めて。

横田 センターは、宿泊施設があるので、企業の社員研修などで利用したらどうでしょうか。日常からちょっと離れて、この空間で宿泊施設を利用して、1日2日の研修プログラムとか、企業側からしたらメリットがあって、ぜひ使いたい。日常だと雑務をしなきゃいけなくなつたりして、いいアイデアが浮かばないから、こういう空間で経営会議とかできれば最高だなと思いました。

苅米 職員の方は、学校などに出前講座のようなものをされていますよね。先生が出向くということですが、職員一人一人がテーマごとに専門性を持つていけば、メニューも増えるし、もっと発信できると思います。

千葉 皆さん、どうもありがとうございました。

全国を見回すと、男女共同参画センターを巡る状況というのは非常に厳しく、女性活躍推進など旗を掲げているわりには、予算や人が十分ではない状況にあります。

そういう中で、今日、みなさんから、センターがよくやっているという話を聞きし、これからの課題に気づかせていただく機会になりました。今日は本当にありがとうございました。

(敬称略)

事業レポート I 男女共生次世代交流会「ふくしま“けんせつ・どぼく女子”座談会」

いまだ“男性の職場”的イメージが強い建設業界に進む女性が増えるよう、一般社団法人福島県建設業協会と連携し、県内の建設・土木関係学科で学ぶ女子高校生と、県内の建設業や行政の技術職として活躍している先輩女性(アドバイザー)との座談会を、「郡山」「いわき」「会津」の3会場で実施しました。

各会場の参加者とアドバイザー

【郡山会場】

郡山北工業高校

日時:令和3年11月4日
参加生徒:郡山北工業高校 16名
アドバイザー:
(株)安藤組
藤原 華代さん
(株)オオバ工務店
浦川 千恵さん
高野 杏海さん
八光建設(株)
根本 千奈美さん
高橋 明実さん

【いわき会場】

勿来工業高等学校

日時:令和3年11月12日
参加生徒:平工業高校 5名
勿来工業高校 6名
磐城農業高校 5名
アドバイザー:
藤田建設工業(株)
富永 美香さん
福浜大一建設(株)
岩佐 正恵さん
常磐開発(株)
中本 恭子さん
(株)南進測量
石川 茂子さん
東信建設(株)
岡 理恵子さん

【会津会場】

会津工業高校

日時:令和3年12月16日
参加生徒:会津工業高校 11名
喜多方桐桜高校 3名
アドバイザー:
佐久間建設工業(株)
庄司 はるかさん
マルト建設(株)
木村 紘梨子さん
(有)幸和建設
馬場 由布子さん
(株)東北入谷まちづくり建設
引地 彩さん
福島県会津若松建設事務所
高樋 夢さん



参加者アンケートから

【郡山会場】

疑問を持っていた、女性として仕事ができるかについて、安心して仕事ができることを知りました。また育休も取れるので仕事と両立できて、さらに興味が出ました。

【いわき会場】

建設業のイメージがすごくいいように変わり、大学に行くメリットやデメリット、育児休暇や産休などたくさんのこと聞くことができ、とてもいい経験になりました。そして将来の参考にもなりました。

【会津会場】

建設業の仕事は力作業が多いものだと思っていましたが、話を聞いてみてそんなことはなく、確かに少しあるようだけどそんな気にすることではないことが分かりました。

*座談会に参加した生徒が、グループのアドバイザーが所属する会社に就職した実績もあります。

事業レポート II コロナ禍における女性のつながりサポート事業

福島県男女共生センターでは、新型コロナウィルス感染症の拡大により、不安や困りごとを抱えている女性を支援するため、「コロナ禍における女性のつながりサポート事業」を実施しています。その中で、昨年6月から、生理用品の寄付を募り生理用品を無償で配布する取組みを始めました。

当センターのほか、当センターチャレンジ支援相談センター(郡山市、会津若松市、いわき市の県合同庁舎内)及び福島県青少年会館(福島市)で昼用・夜用各1パックを配布しています。また、当センターと青少年会館の女性トイレに生理用品を置き、ご利用いただいています。

少しでも支援を必要とされる多くの方に行き届くよう、窓口での配布に加え、大学・短大・専門学校等や各社会福祉協議会、女性支援や子ども食堂の運営等を行うNPO等のご協力により、生理用品の配布も行っています。

大学・短大・専門学校等では、トイレへの配置や保健室での配布、フードバンクから寄付のあった食料品と併せて支給を行い、各社会福祉協議会では、相談窓口での配布、生活困窮者の方へ食料品等とともに配布しています。子ども食堂の場合は、現在コロナ禍のため、食堂を開くことが難しいため、困窮している家庭に食材を宅配する「食宅」事業を行っている団体が多く、その際に生理用品を必要とする世帯に配布しています。



令和4年1月31日現在、個人や企業、団体等の皆様方から165件、7,555パックのご寄付をいただきました。当センターでは、現在も生理用品の寄付を受け付けております。詳しくは、当センターのホームページをご覧ください。

問い合わせ

福島県男女共生センター事業課 電話:0243-23-8304

こちらからどうぞ→



ふくしま男女共同参画プランの改定について

福島県では、本県における男女共同参画社会の形成促進のための総合的な基本計画である「ふくしま男女共同参画プラン」を、国の第5次男女共同参画基本計画の策定、新たな福島県総合計画の策定及び本県の男女共同参画の推進を取り巻く社会経済情勢の変化等を踏まえ、令和3年12月に改定しました。

新たなプランの主な特徴として、1つ目は、「男女共同参画意識の普及啓発や、多様性を尊重する社会(いわゆる多様性社会)の実現」に更に注目していることです。女性のみならず、男性の意識改革や主体的参画に重点を置いています。また、性的マイノリティなど多様性の尊重に一層注目し、施策を推進していきます。

2つ目は、「多様で柔軟な働き方の推進等、仕事と生活の調和を更に促進」することです。コロナ禍を契機としてテレワーク等多様で柔軟な働き方が期待される中、更なる促進を図っていきます。

3つ目は、基本目標「女性等に対するあらゆる暴力の根絶と安心な暮らしや健康への支援」の中項目として、新たに「生活上の困難を抱える女性等の安心な暮らしへの支援」を追加したことです。コロナ禍によって、雇用環境の悪化やDVの増加等、大きな影響を受けている女性を始め、ひとり親世帯、高齢者、障がい者等が、社会から孤立することなく、安心して暮らせる社会の実現に向け、就業支援など必要な支援を、関係機関・団体が連携し、実施していきます。

ふくしま男女共同参画プラン

理念

すべての県民が個人として尊重され、性別にかかわりなく、自己の能力を自らの意思に基づいて発揮することができ、あらゆる分野にともに参画し、責任を担う社会

- I 復興・防災における男女共同参画の推進
- II 人権尊重と男女平等を基本とした男女共同参画の推進
- III 女性活躍の促進
- IV 仕事と生活の調和を図るための環境の整備
- V 女性等に対するあらゆる暴力の根絶と安心な暮らしや健康への支援

福島県総合計画の政策分野

- 誰もがいきいきと暮らせる県づくり(「ひと」政策4)
- 福島の産業を支える人材の確保・育成(「しごと」政策6)等

男女共同参画社会とは

「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担う社会」です。

(福島県男女平等を実現し男女が個人として尊重される社会を形成するための男女共同参画の推進に関する条例第2条)

詳しくは、県のホームページ「ふくしま男女共同参画プラン改訂(令和3年12月)について」をご覧ください。

福島県 生活環境部 男女共生課
電話:024-521-7188

寄稿

～明治44年福島の地方新聞にいた～ 木村よしの・女性記者伝③

元福島民友新聞社取締役
町田 久次

さて明治44年(1911)に福島民友新聞で筆をとっていた「木村よしのさん」という女性記者は、いったい誰だったのでしょうか?

一連の連載を解析すると、彼女は①福島に来たのは最近。それまで東京にいた②在京時代、女性解放運動家の福田英子と親交があった③大学かどこかで国文学者の佐々醒雪の講義を聴いていた④やたら演劇や芝居に造詣が深い～などが数少ない手がかりのよう。

私の調査が前進し始めたのは、国立国会図書館が蔵書する膨大な資料を、近代デジタルコレクションとして一般公開を開始されたのがきっかけでした。「木村よしの」の名前で検索すると、2人のある人物がヒットします。

ひとりは明治42年から43年にかけて、早稲田大学の坪内逍遙博士が開いた文芸協会演劇研究所(男女優養成所)の第1期生として、かの有名な松井須磨子と共に女優をめざしていた「五十嵐よしの」という若き女性。もうひとりは、ずっと後の昭和8年(1933)に東京都が開設した結婚相談所で、主任相談員を長くつとめていた「木村よしの」とおっしゃる人物。

驚くことに、「五十嵐よしの」と「木村よしの」は同一人物なのだとわかつてきます。そして彼女が、東京の日本女子大学英文科を中退して入った文芸協会の学籍簿をたどると、彼女の原籍は「福島県福島市新町×番地、五十嵐××長女、明治22年12月生まれ」と書かれてあるのです。びっくりしました!

ともあれ彼女は、当時の新聞記事を拝見すると、日本の新聞界においてトップレベルの、抜きんでた力量の持ち主の女性記者、ジャーナリストだったのではないか。そんな気持ちに駆られます。日本で最初の女性記者が誕生したのは明治23(1890)年に国民新聞に入った竹越竹代らで知られ、東京朝日新聞においては木村よしのさんと同じ明治44年に竹中繁という女性が入社しています。そんなまだ草分けの時代に、木村よしのさんが先駆者として郷土福島の新聞界に出現したことになるのでは……。

注目したいことに、明治44年というは、女性運動家の平塚らいでうが女性だけの評論誌「青鞆」を創刊し、福島から世に出た長沼(高村)智恵子がその表紙絵を描いた年。また大逆事件で幸徳秋水らが処刑され、世情騒然とした時代でもありました。

最後になりますが、もうひとつ彼女の東京都結婚相談所時代の資料をたどると、木村よしのさんは昭和30年代の婦人雑誌に華々しく登場するなど、結婚問題の評論家としてめざましい活躍がしのばれます。しかも彼女が出版した本の座談会で「生まれ故郷の会津へ墓参りに行ってきました」と述べるくだりも発見しました。

ああ、彼女はそもそも会津の生まれだつたのか! 一体どこだろう? とまたまた謎が深まっていきます。とておきの写真を添えて連載を閉じましょう。最後までご愛読ありがとうございました。

◀②昭和31年、婦人雑誌に掲載された木村よしのさんの素顔
(下段中央、国会図書館蔵書より)

※こちらの寄稿は今号で終わりとなります。町田さんありがとうございました。

お知らせ 連載の詳しい内容が「木村よしの・おんな記者伝」(‘21年、郁朋社)として刊行されています。



▲①明治42年、文芸協会時代の五十嵐よしのさん(右から2人目)、左が松井須磨子さん(国会図書館蔵書より)



◀②昭和31年、婦人雑誌に掲載された木村よしのさんの素顔
(下段中央、国会図書館蔵書より)



町田 久次 さん
1971年～2011年福島民友新聞社に在職。
現在、会津若松市男女共同参画推進実行委員会委員、下村満子の「生き方塾」応援団



身近なジェンダー問題について考えてみませんか？

今年度発行の79・80号は、「ジェンダーについて学ぶ学生の取組み紹介」として、県内の中高生の活動を紹介しました。

今回は、少し視点を変えて、学生の皆さんに身近な制服からジェンダー問題について考えます。

近年、気候の変化や本人の意向に合わせて、着用する制服を選択できる学校が全国的に増えています。多様性やSDGsへの取組みが広がり、社会全体に認知されてきたことで、特に、教育現場では「LGBT」への対応等として、女子用スラックスの導入等の取組みが進んでいるそうです。

県内の多くの学校は、男子はスラックス、女子はスカートと規定され、冬の寒い時期にも、女子はスカートしか着用できません。性差によって女子生徒が不利益を被っており、身近なジェンダー問題であると言えます。

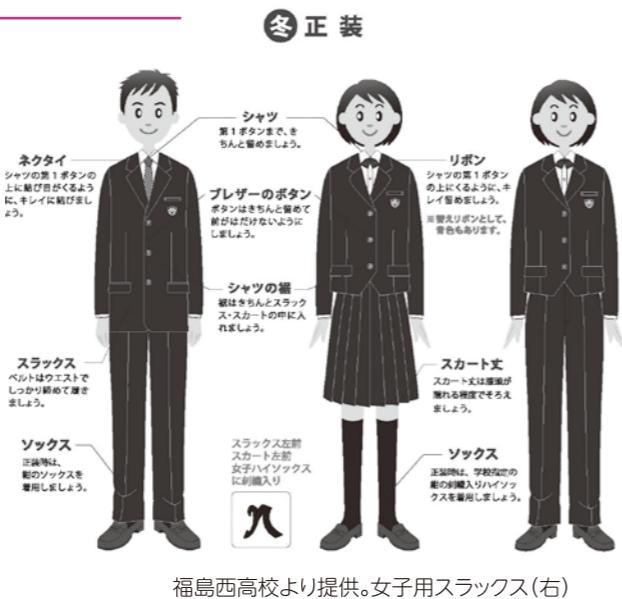
そんな中、県内でも令和2年頃から女子用スラックスを導入した学校があります。下記学校の先生に電話取材し、①女子用スラックスを導入した理由、②導入した時期、③着用率について伺いました。

福島西高校(福島市)

- ①生徒から「冬寒いのでズボンを履きたい」と要望があり、季節に合った服装ができるよう、寒さ対策のため。
- ②令和2年秋より
- ③5%くらい。

取組みの現状等について

「昨度から始めたばかりの取組みであるため、今後、定着していくと思う。」



福島西高校より提供。女子用スラックス(右)

月館学園(伊達市)

- ①女子児童から「私服はズボンが多いが、制服はどうしてスカートなの？」という話を受け、設立時の制服検討部会で話題、これからの時代女子だからスカートという考え方をなくそうと、意見が一致し導入した。

- ②令和2年4月～

- ③現在はない。

取組みの現状等について

「多くがスカートのため、スラックスは履きづらいのかもしれない。」



伊達市教育委員会より提供。女子用スラックス(右)

会津北嶺高校(会津若松市)

- ①生徒から担任に「寒いのにどうしてスカートなのか」と申し出があったこと、また、自転車通学が多く、スカートの裾が気になるという声から、導入を検討。
- ②令和4年4月～(予定)
- ③導入前

女子用スラックスの定着のためには？

「LGBTの生徒への配慮として、女子用スラックスを採用するとなれば、着用したくても着用しづらくなるため、寒さ対策や自転車通学等学校生活の中で動きやすい服装であるとなれば、定着しやすいのではないか。」



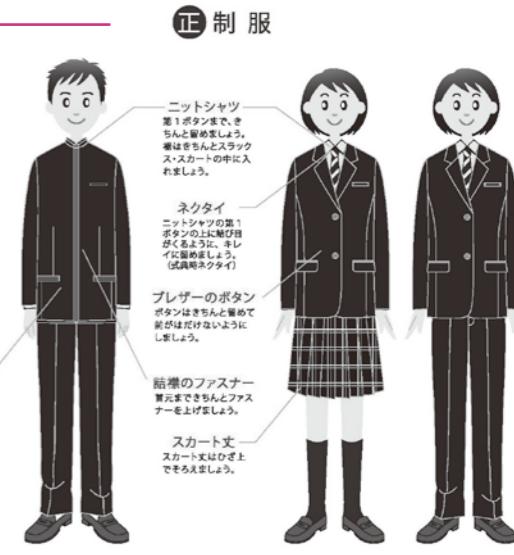
会津北嶺高校より提供。(HPより)

小名浜海星高校(いわき市)

- ①統合校開校に合わせ、両校・制服業者と交え、検討した結果、今の社会の流れ等も考え、女子用スラックスを選択できるよう採用した。
- ②令和3年4月～
- ③2名(新制服は1学年のみ)

取組みの現状等について

「新制服は1学年のみで、始まったばかりの取組み。今後、スラックスを着用する生徒が増えていくと思う。」



小名浜海星高校より提供。女子用スラックス(右)

女子用スラックスの採用により、スカート以外の選択肢が増えたことが重要です。

令和4年度に開校する制服がある統合校(高校)では、全ての高校が女子用スラックスを採用する予定で、県内でも選択できる高校が増えていきそうです。「周りの目が気になる」などの理由で、着用をためらう生徒が出ないよう、選択しやすい環境作りも一緒に広がっていくことが大切だと思います。

表紙イラストの作者紹介 中村亞都子さんのプロフィール

1953年、郡山市生まれ。多摩美術大学大学院美術研究家絵画専攻修了。現在は尚志高等学校をはじめとする教育機関で美術科の講師を務めながら個展等で作品を発表。



今年度の未来館NEWS(79～81号)の表紙イラストについて

当センターの未来館フェスティバルのポスターイラスト(平成25～30年)を描いていただいたご縁で、中村さんに表紙のイラストをお願いしました。当センターは昨年の1月で開館20年でしたが、予定していた記念事業等も新型コロナウイルスの影響で延期になり、思うように事業ができない状況が続いています。人と人とのコミュニケーションが希薄となり、塞ぎこんでしまう日々の中で、未来館NEWSを手に取ってくださった方が、あたたかい、穏やかな気持ちになってくださった方が、嬉しいです。

センター館内にOiTr(オイテル)設置しました



「生理の貧困」の問題への対応や女性の生理に伴う負担軽減のため、個室トイレに生理用ナプキンを常備し無料で提供するサービス「OiTr(オイテル)」を導入、このたび、センターの女性用トイレ5カ所に設置しました。

【設置場所】

センター女性用トイレ 3階:1台 4階:2台、5階:2台

利用方法など
詳しくはこちらを
ご覧ください。



センター利用案内

研修室・宿泊室

☎0243-23-8301(代表)

開館時間:9時~21時(休館日前日は、17時)

休館日:月曜日(この日が祝日の場合はその翌日)、年末年始(12/29~1/3)

※その他臨時休館することがあります。

各研修室(25名程度)1,000円~ 宿泊室(1泊1名)4,400円~ (公共無線LAN(Wi-Fi)も利用可能。)

相談室

相談無料

秘密厳守

☎0243-23-8320

開室時間:9時~12時・13時~16時 [水曜日] 13時~17時・18時~20時

- 一般相談 ○法律相談 第3水曜日 ○女性のためのカウンセリング 第1・3金曜日
○男性相談員による相談(電話のみ)火曜日 17時~20時 ※事前予約が必要な相談があります。詳しくは上記まで。

図書室

☎0243-23-8308

開室時間:9時~20時 [休館日前日] 9時~17時

約4万冊を蔵書。毎月テーマを変え、おすすめの本を紹介。
児童書や大型絵本もあります。

福祉機器展示室

☎0243-23-8316

開室時間:9時~12時・13時~17時

約600点以上の福祉用具を「見て 触れて 体験できる」
県内最大規模の展示室。福祉用具や住宅改修に関する
ご相談もお受けしています。

チャレンジ&内職相談

相談無料

秘密厳守

再就職・キャリアアップ・起業等の相談や、内職の斡旋、事業所からの内職求人の受付等を行っています。相談は、各相談コーナーにお電話ください。※祝日はお休みです。

●二本松相談コーナー(県北、相双地区担当)

☎0243-23-8307

相談日・時間:火~金・9~12時、13~16時

●郡山相談コーナー(県中、県南地区担当)

☎024-927-4030

相談日・時間:月~木・9~12時、13~16時

●いわき相談コーナー(いわき地区、双葉郡担当)

☎0246-22-6400

相談日・時間:月~木・9~12時、13~16時

●会津相談コーナー(会津、南会津地区担当)

☎0242-29-5588

相談日・時間:月~木・9~12時、13~16時

アンケートにご協力ください。



広報誌「未来館NEWS」では、よりよい紙面づくりのため、アンケートを実施しています。ご意見、ご感想、取り上げてほしいテーマなど、Googleフォームにてお受けしています。

アンケートはこちら→



当センターに対するご意見・ご質問等がありましたら、下記までお問い合わせください。

(公財)福島県青少年育成・男女共生推進機構

福島県男女共生センター(女と男の未来館)

〒964-0904 福島県二本松市郭内一丁目196-1

TEL:0243-23-8301(代) FAX:0243-23-8312

<https://www.f-miraikan.or.jp>



公式 Facebook

N E W S
未 来 館

2022 SPRING
VOL.

81